

14 2009 年度わが国貿易収支、経常収支の見通し

2008年12月5日発表
社団法人日本貿易会

I . 要 旨

1. 商品別貿易の見通し（通関ベース）

● 2008 年度 ― 輸入は年度上半期の資源・エネルギー高で過去最高

輸出総額は前年度比 2.3%減の 83 兆 1,220 億円と見込まれる。輸出数量は、米欧向けを中心とした自動車・電算機類等の不調で同 0.2%減と 01 年度以来の減少となる見込みである。輸出価格は円高による円建て価格低下を主因に同 2.1%低下するとみている。

輸入総額は前年度比 2.7%増の 76 兆 9,430 億円と見込む。これはエネルギー・金属資源・穀物など一次産品価格が前年度比で大幅に上昇し、輸入価格が同 4.2%高と上昇することによる。ただし、国内需要の伸び悩みから輸入数量は同 1.4%減と 07 年度に続き減少する見込みである。

● 2009 年度 ― 輸出はさらに減少、輸入は価格下落で大幅減

輸出総額は 77 兆 5,600 億円で前年度比 6.7%減と予想される。輸出数量は、世界経済の大幅減速の影響により伸び率が 08 年度を大幅に下回る同 4.1%減となり、輸出価格も円高の影響を受け同 2.7%低下するだろう。

輸入総額は、エネルギー・金属資源・食料の価格の大幅下落と円高進行の影響で輸入価格が大きく下がることにより、前年度比 17.0%減の 63 兆 8,980 億円と 3 年ぶりの低水準となることが予想される。輸入数量も国内需要の低迷により同 2.7%減と 3 年連続の減少となるだろう。

2. 経常収支の見通し

● 2008 年度 ― 輸出減・輸入増により経常収支黒字は 7 年ぶりに縮小

経常収支黒字は、20 兆 4,300 億円と 7 年ぶりに黒字幅を縮小する見込みである。

貿易収支黒字は、輸出金額が減少に転じる中で、輸入金額が増加することから、前年度比 3 兆 7,760 億円減の 7 兆 9,100 億円となる見込みである。また、所得収支黒字は、海外金利の低下と円高による円ベース受け取り金額の減少により、07 年度比で 9,240 億円減の 15 兆 8,300 億円となる見込みである。一方、サービス収支の赤字は、輸送収支や旅行収支の赤字幅縮小により、1 兆 9,900 億円と 07 年度から縮小する見込みである。

● 2009 年度 ― 経常収支黒字は輸入金額の大幅減を背景に過去最高の 27 兆円に

経常収支黒字は 26 兆 9,800 億円となり、08 年度の水準から 6 兆円以上の増加となる見通しである。これは、輸出が減少するものの、輸入がエネルギー・金属資源・食料価格の下落で輸出の減少幅を大幅に上回る減少となることによる。一方、サービス収支赤字は、円高による旅行収支赤字の拡大等の影響により赤字が小幅拡大する見通し。所得収支は、海外金利低下と円高にともなう受け取りの減少により黒字幅がやや縮小すると予想している。

II . 総括表

【通関貿易】

項 目	2007 年度 実績		2008 年度 見込み		2009 年度 見通し	
	(10 億円)	対前年度比 伸び率 (%)	(10 億円)	対前年度比 伸び率 (%)	(10 億円)	対前年度比 伸び率 (%)
輸 出	85,116	9.9	83,122	▲2.3	77,560	▲6.7
		7.7		▲0.2		▲4.1
		2.0		▲2.1		▲2.7
輸 入	74,904	9.4	76,943	2.7	63,898	▲17.0
		▲3.1		▲1.4		▲2.7
		13.1		4.2		▲14.7

【経常収支】

項 目		2007 年度 実績		2008 年度 見込み		2009 年度 見通し	
		(10億円)	対前年度比 増減、伸び率	(10億円)	対前年度比 増減、伸び率	(10億円)	対前年度比 増減、伸び率
貿易・サービス収支	貿易収支	11,686	1,202	7,910	▲3,776	14,680	6,770
	輸 出	80,945	9.9%	79,050	▲2.3%	73,760	▲6.7%
	輸 入	69,258	9.6%	71,140	2.7%	59,080	▲17.0%
	サービス収支	▲2,596	▲298	▲1,990	606	▲2,020	▲30
	所得収支	16,754	2,506	15,830	▲924	15,660	▲170
経常移転収支		▲1,300	▲20	▲1,320	▲20	▲1,340	▲20
経常収支		24,544	3,391	20,430	▲4,114	26,980	6,550

Ⅲ. 商品別貿易の見通し（通関ベース）

1. 輸 出

◆◆◆ 2008 年度◆◆◆

世界経済の減速が鮮明となり、日本の輸出は減少に転じた。海外需要の不振から当年度の輸出数量は 01 年度以来の前年度比マイナスとなる見込みである。また輸出価格についても円高の進行により下落するとみられる。商品別には、自動車が米欧向けの落ち込みの影響で減少するほか、電気機器でも半導体等電子部品などが減少する見込みである。船舶は受注ベースでは減少傾向にあるものの通関ベースでは増加が続くだろう。原料別製品では、鉄鋼が上半期に大幅に増加し、下半期には減少に転じるが、通期の輸出金額は同 7.3%の増加となる見込みである。

◆◆◆ 2009 年度◆◆◆

先進国における景気後退と新興国・資源国経済の大幅減速で、海外需要は大幅に落ち込むだろう。円高による輸出価格の低下も続くだろう。この結果、日本の輸出は前年度比 6.7%減と 01 年度以来の大幅な落ち込みとなる。商品別では、ほぼすべての品目で減少となる見通しである。輸送用機器では、自動車が米欧市場向けのみならずほぼすべての地域向けに大幅に減少すると予想される。一般機械、電気機器も世界経済の減速にともなう輸出数量の減少と単価の下落により減少するだろう。原料別製品では、鉄鋼が世界的な需要の冷え込みを背景に前年度比 2 割以上の大幅な減少となる見通しである。

2. 輸 入

◆◆◆ 2008 年度◆◆◆

輸入は鉱工業生産の不振にともなう製造業におけるエネルギー・原料需要の減少や製品輸入の不調で、輸入数量の伸び率が前年度に続きマイナスとなる見込みである。一方、輸入価格は、上半期に一次産品価格の大幅な上昇があり、その後の下落傾向にもかかわらず、年度通期では前年度比プラスとなるだろう。この結果、輸入金額は前年度比 2.7%増の 76 兆 9,430 億円となり、過去最高となる見込みである。商品別に見ると、鉱物性燃料は価格要因から輸入金額は大幅増となる見込みである。原料別製品については、鉄鋼・非鉄金属等の下半期における価格の大幅下落の影響により、減少する見込みである。機械機器やその他製品の輸入は国内需要の不調を受けて減少するだろう。

◆◆◆ 2009 年度◆◆◆

日本国内では設備投資や個人消費が今後さらに落ち込むとみられ、輸入数量の減少が続く見通しである。また、輸入価格についても、国際商品市況の下落に加えて、円高の影響もあり大幅な低下が予想される。この結果、輸入金額は前年度比 17.0%減と大幅な落ち込みを示すだろう。商品別に見ても多くの項目で数量・価格共にマイナスとなるだろう。鉱物性燃料は、原油を中心としたエネルギー価格の大幅な下落により大幅に減少する見通しである。原料品も、価格の下落と輸入数量の減少により大幅減となる見通しである。また、一般機械は、電算機類の輸入単価の低下や、原動機・半導体等製造装置の需要不調により減少が続くと予想される。輸送用機器については、高級輸入車が減少するが、引き渡しの遅れていた新型航空機が輸入されることから全体としては前年度比で小幅に増加する見通しである。

Ⅳ. 経常収支の見通し

◆◆◆ 2008 年度◆◆◆

輸出金額が減少に転じる一方で輸入金額の増加が続くことから、貿易収支黒字は、前年度比で大幅に減少し、7 兆 9,100 億円となる見込みである。サービス収支は、旅行収支の受け取り増を主因に赤字が縮小する見込みである。所得収支の黒字は、海外金利の低下と円高による円ベース受け取り金額の減少により、6 年ぶりに縮小する見込みである。この結果、経常収支黒字は 07 年度の 24 兆 5,444 億円から 4 兆 1,144 億円減少し、20 兆 4,300 億円となる見込みである。

◆◆◆ 2009 年度◆◆◆

09 年度の貿易収支黒字は、世界経済の減速を主因に輸出が前年度比 6.7% 減と減少幅を拡大させる一方、エネルギー・金属資源・食料の価格下落や円高の影響により輸入が同 17.0%減と輸出の減少幅を大きく上回る減少を示すことから、差し引きで 14 兆 6,800 億円と 98 年度に次ぐ過去 2 番目の水準を記録する可能性が高い。サービス収支赤字は、円高の影響で訪日外国人旅行者数が伸び悩み、旅行収支赤字の拡大を招く結果となり、08 年度に比較して赤字幅が拡大する見通しである。所得収支は、海外金利の低下と円高による円ベース受け取り金額の減少により、黒字幅がやや縮小する見通しである。結果として、経常収支黒字は 26 兆 9,800 億円に達し、過去最大となる可能性が高い。

Ⅴ. 前提条件

【前提条件】

項 目	2007 年 実績	2008 年 見込み	2009 年 見通し
世界貿易 (暦年)	6.4 %	4.9 %	4.1 %
世界経済 (暦年・実質)	5.0 %	3.7 %	2.2 %
米国経済 (暦年・実質)	2.0 %	1.4 %	▲0.7 %
EU 経済 (暦年・実質)	3.1 %	1.5 %	▲0.2 %
アジア経済 (暦年・実質)	9.3 %	7.6 %	6.3 %
日本経済 (暦年・実質)	2.1 %	0.5 %	▲0.2 %
円相場 (年度、対ドル)	114 円	101 円	95 円
原油入着価格 (年度、ドル/バレル)	78 ドル	97 ドル	70 ドル

(注 1) 円相場、原油入着価格以外の数字は IMF "World Economic Outlook 2008 (10 月/11 月版)" に基づく。
(注 2) アジアは IMF 定義による「アジア途上国 (25)」 + 「NIES (4)」の 29 カ国ベースに調整。
(注 3) 円相場、並びに原油価格は今回の貿易見通し作成の前提条件として、直近の実績を参考に設定したものであり、予想ではない。

2009 年度わが国貿易収支、経常収支の見通し（商品別輸出）

輸 出		2007 年度（実績）		2008 年度（見込み）				2009 年度（見通し）				コメント	
				上半期		下半期		10 億円		伸率 %			
		10 億円	伸率 %	（実 績）	伸率 %	（見込み）	伸率 %						
総 額		85,116	+9.9%	42,901	+2.5%	40,221	▲7.1%	83,122	▲2.3%	↓	77,560	▲6.7%	
EX 01	食料品	416	+10.4%	205	+2.7%	219	+1.1%	424	+1.9%	↓	420	▲1.0%	5 割を占める魚介類・調製品が減少。 穀物は価格高騰により上半期の輸出金額が上昇するも、下半期は円高と価格下落により伸び鈍化。
EX 02	原料品	1,088	+15.8%	615	+14.5%	466	▲15.5%	1,081	▲0.7%	↓	900	▲16.8%	5 割を占める金属鉱及びくすの大半を占める鉄鋼スクラップ価格が高騰し、上半期の輸出金額が大幅増。下半期は、市況が悪化し 9 月以降鉄鋼スクラップ価格が暴落。加えて大口輸出先である韓国のウォン安により、輸出環境が悪化。
EX 03	鉱物性燃料	1,193	+68.9%	1,161	+114.4%	670	+2.9%	1,831	+53.5%	↓	1,190	▲35.0%	軽油および灯油の輸出金額は上半期に 100% 以上の伸び。下半期は、エネルギー価格の下落と円高を背景に、軽油と灯油を中心に急速な鈍化が見込まれ、08 年度の輸出金額は 50% 増程度。
EX 04	化学製品	7,820	+11.6%	3,973	+2.2%	3,881	▲1.3%	7,854	+0.4%	↓	7,752	▲1.3%	世界的な景気減速（特に、米国をはじめとする各国の住宅市場の低迷や、自動車販売の不振が必要に大きく影響すると予想される）による需要後退、過剰気味の供給体制等により、需給が大きく緩和。ただし、輸出金額の伸びは、上半期の好調な実績もあり、年度全体では若干増にとどまる。
EX 05	原料別製品	10,072	+12.0%	5,386	+7.1%	4,720	▲6.4%	10,107	+0.3%	↓	8,630	▲14.6%	夏場以降、海外市場で鋼材価格が大きく下落し、下半期から内外とも粗鋼減産の動きが強まる。鉄鋼輸出数量は暦年こそ過去最高を更新するが、年度下半期は大幅減。
	05a 鉄鋼	4,144	+13.6%	2,417	+18.3%	2,030	▲3.4%	4,447	+7.3%	↓	3,460	▲22.2%	夏場以降、海外市場で鋼材価格が大きく下落し、内外メーカーで下半期から減産の動きが広がる等、需給環境は急速に悪化。鉄鋼の輸出数量は 08 暦年ベースで過去最高の 3,704 万トンを上回ると予測されているが、特に 08 年度下半期後半の輸出数量は大きく落ち込み、価格も上半期に比べ 10% 程度は下落。
	05b 非鉄金属	1,601	+19.0%	793	▲1.4%	680	▲14.7%	1,473	▲8.0%	↓	1,330	▲9.7%	銅及び同製品は、上半期の出荷数量ほぼ横ばいながら、銅地金を主因とした単価下落により、輸出金額 10.4% 減少。下半期は、銅地金下落の影響がより顕著になる可能性が高い。アルミ及び同製品は、上半期堅調な板需要が弱含みを続ける押し出し需要を補充していたが、金融不安に伴う世界的な不況の影響を受け下半期以降は需要減を免れない。相場下落に伴い輸出金額も大幅減。
	05c 織物用糸・繊維製品	816	+1.6%	393	▲6.2%	369	▲7.3%	761	▲6.7%	↓	736	▲3.4%	繊維素材は、最大仕向け地である中国において先進国向け繊維製品の生産が低調となったことから失速したうえ、これまで堅調に伸びていた欧州向け高級素材も世界同時不況の影響で頭打ち。原燃料価格高騰と円高が重なり、輸出採算は悪化。自動車など産業用途向けの原糸や不織布は、海外に代替品がなく非価格競争力が強いため上半期は底堅く推移。
	05d 非金属鉱物製品	960	+9.4%	487	+2.0%	487	+0.9%	974	+1.4%	↓	922	▲5.3%	非金属鉱物製品は、原料価格高騰により上半期は価格上昇するも、下半期は景気悪化を受け伸び鈍化。ガラス及び同製品は、上半期は原燃料コストの圧力を受け価格が上昇し輸出金額増加、下半期は伸び鈍化。セメント価格は上昇するが、需要は下半期にかけて弱含み。
EX 06	一般機械	16,815	+10.2%	8,312	▲1.0%	7,749	▲8.0%	16,061	▲4.5%	↓	15,258	▲5.0%	上半期は、約 15% を占める原動機の輸出金額が減少（1.6% 減）したことに加え、電算機類の部分品や電算機類（含周辺機器）の輸出金額も共に減少し、1.0% 減。下半期は、円高の影響もあり、原動機、電算機類の部分品を中心に複数の品目の輸出金額の大幅な減少が見込まれ、08 年度は 4.5% 程度の減少。
	06a 電算機類（含周辺機器）	868	+2.5%	377	▲16.7%	372	▲10.5%	749	▲13.7%	↓	708	▲5.5%	上半期は、電算機類、プリンター、デジタル複合機等の周辺機器を中心に輸出数量が大幅に増加（13.8% 増）。一方、輸出価格は大幅に下落（26.8% 安）し、輸出金額は 16.7% 減。下半期は、国内の生産・出荷の減速、世界経済の減速、円高の影響により、数量の伸び悩みと価格の下落が続く。08 年度の輸出金額は 13.7% 減。
	06b 電算機類の部分品	1,843	+0.7%	869	▲6.3%	870	▲4.9%	1,739	▲5.6%	↓	1,620	▲6.9%	上半期は、価格が 4.9% 安、数量も 1.4% 減となり、輸出金額は 6.3% 減。日本製部品の価格が高いことを背景に、中国等で日本以外の国から部品を調達する動きが進んでいるほか、特殊要因（HS コードの分類改定により「電算機類の部分品」の一部が「通信機（部分品）」や「音響・映像機器の部分品」に組み入れられたこと等）によって輸出金額は減少しており、下半期は上半期と同様に、数量の微減と価格の下落が続く。08 年度通期では 5.6% 減。
EX 07	電気機器	16,736	+2.0%	8,250	▲2.3%	8,044	▲3.0%	16,294	▲2.6%	↓	15,969	▲2.0%	半導体等電子部品の減少に加え、電気計測機器も大幅に減少し、通信機器は景気後退の買い控えにより、輸出金額は減少。
	07a 半導体等電子部品	5,068	+0.1%	2,519	▲2.7%	2,405	▲3.0%	4,924	▲2.8%	↓	4,727	▲4.0%	世界的な景気後退により輸出金額は減少。
EX 08	輸送用機器	21,358	+13.1%	10,281	+2.0%	9,735	▲13.7%	20,016	▲6.3%	↓	18,365	▲8.2%	上半期は、先進国の景気減速で米国向け自動車および自動車生産用部品が大幅に減少、EU 向け自動車も減少したが、中国・ロシア・中東などの新興国、資源国向け自動車が増加で、輸送機全体としては増加。しかし下半期には、金融危機の影響が新興国にも及び、自動車及び自動車生産用部品が大幅に減少。
	08a 自動車	14,673	+14.3%	7,202	+4.4%	6,417	▲17.5%	13,619	▲7.2%	↓	12,257	▲10.0%	金融危機による景気停滞で米国、EU 向け自動車が増減、特に米国向け車種構成がコンパクトカーへシフトしたことにより、単価も下落。
	08b 自動車の部分品	3,382	+9.9%	1,616	▲4.4%	1,439	▲15.0%	3,054	▲9.7%	↓	2,746	▲10.1%	上半期は、円高、米国での自動車生産減少から海外生産用部品が減少。下半期は、円高の加速に加え、米国以外の生産拠点多減産体制に入り、輸出金額の減少は加速。
	08c 船舶	1,900	+19.9%	855	+2.0%	1,209	+13.9%	2,064	+8.6%	↑	2,147	+4.0%	
EX 09	その他	9,617	+8.3%	4,718	▲0.4%	4,736	▲3.0%	9,453	▲1.7%	↓	9,076	▲4.0%	これまで増加基調で推移してきた記録媒体や写真用・映画用材料が年初来減少に転じるなど、円高反転による価格競争力低下から幅広い製品分野で落ち込みが始まった。
	09a 科学光学機器	2,142	▲7.8%	1,094	+3.7%	1,072	▲1.4%	2,165	+1.1%	↓	2,100	▲3.0%	

* 金額は億円単位を四捨五入

* 「↑」は前年度比増加、「↓」は減少、「→」は横ばい（前年度比±1%未満）を表している

2009 年度わが国貿易収支、経常収支の見通し（商品別輸入）

輸 入		2007 年度（実績）		2008 年度（見込み）						2009 年度（見通し）		コメント	
				上半期		下半期							
		10 億円	伸率 %	（実 績）	伸率 %	（見込み）	伸率 %	10 億円	伸率 %	10 億円	伸率 %		
総 額		74,904	+9.4%	42,110	+16.1%	34,834	▲9.9%	76,943	+2.7%	↓ 63,898	▲17.0%		
IM 01 食料品		6,035	+4.1%	3,252	+6.6%	3,003	+0.6%	6,255	+3.6%	↓ 6,092	▲2.6%		トウモロコシ・小麦価格は上半期に高騰した後、下落に転じた。野菜は中国からの輸入が減少傾向持続。
01a 魚介類		1,478	▲6.6%	744	▲0.2%	717	▲2.1%	1,461	▲1.1%	↓ 1,404	▲3.9%		エビは現地加工が進んでおり生鮮・冷凍品は減少基調。マグロは、漁獲制限、原燃料費高騰により価格高騰、輸入数量は減少。
01b 肉類		1,017	+4.0%	560	+6.8%	508	+3.1%	1,068	+5.0%	↑ 1,099	+2.9%		豚肉は需要拡大により堅調に推移。牛肉は米国からの輸入停止に伴い減少基調が継続。鶏肉は割安なブラジル産鶏肉の需要が高まり増加。
IM 02 原料品		5,595	+11.9%	2,979	+0.3%	1,800	▲31.5%	4,779	▲14.6%	↓ 3,050	▲36.2%		鉄鉱石は価格要因で輸入金額が増加、非鉄金属鉱は円高と市況下落により価格が大幅下落。
02a 鉄鉱石		1,071	+21.9%	696	+32.5%	656	+20.2%	1,352	+26.3%	↓ 975	▲27.9%		市況悪化に伴い減産。
02b 非鉄金属鉱		2,037	+12.3%	937	▲18.2%	330	▲63.0%	1,267	▲37.8%	↓ 689	▲45.6%		銅精鉱輸入量は前年と同水準。
IM 03 鉱物性燃料		22,235	+20.5%	15,450	+59.8%	11,100	▲11.7%	26,550	+19.4%	↓ 17,591	▲33.7%		下半期にはエネルギー価格の下落、円高の影響、景気の減速に伴う需要の減少によって、輸入金額の伸びは上半期よりも大幅に鈍化。
03a 原油及び粗油		13,692	+20.5%	9,348	+60.5%	5,601	▲28.8%	14,949	+9.2%	↓ 9,787	▲34.5%		下半期には WTI の価格下落の影響により中東 DD 原油価格も大幅に下落、国内経済の減速を反映し輸入数量も減少するため、輸入金額は大幅に減少。
03b 石油製品		2,120	+17.5%	1,351	+42.3%	940	▲19.7%	2,291	+8.1%	↓ 1,560	▲31.9%		原油価格の下落とともに石油製品価格も下落、石油製品の需要も減少し始めているため、下半期の輸入金額は減少に転じる。
03c LNG		3,476	+27.3%	2,362	+56.8%	2,500	+26.9%	4,862	+39.9%	↓ 3,120	▲35.8%		上半期は電力向けスポット需要増で輸入数量が増加した。下半期の輸入数量は微増にとどまる（0.3% 増）。LNG 価格は原油価格の下落に伴い下落する。
03d LPG		1,095	+22.4%	593	+24.3%	473	▲23.5%	1,065	▲2.7%	↓ 863	▲19.0%		輸入数量は 1,300 万 t（5.3% 減）、輸入価格は 2.7% 上昇となり、輸入金額は 1 兆 650 億円（2.7% 減）。
03e 石炭		1,775	+10.4%	1,725	+97.5%	1,534	+70.2%	3,260	+83.7%	↓ 2,119	▲35.0%		原料炭は国内鉄鋼生産が高水準を維持している間は堅調な伸びを続けていたが、鋼材市況の軟化から減産の動きが広がるにつれてピークアウト。一般炭も石炭火力発電所の能力限界から頭打ち。ドル建て価格は、原料炭、一般炭のいずれも前年度比高水準にあるものの、一般炭スポット価格は需給緩和ですでに急落。
IM 04 化学製品		5,517	+8.2%	2,962	+9.0%	2,872	+2.6%	5,833	+5.7%	↑ 5,890	+1.0%		世界的な景気減速は日本国内の景気にも波及すると考えられ、08 年度下半期以降は実需が弱含み。他方、円高の動きが輸入を押し上げる効果をもたらすとも考えられ、08 年度では増加。
IM 05 原料別製品		7,328	+6.6%	3,998	+5.2%	2,700	▲23.4%	6,698	▲8.6%	↓ 5,200	▲22.4%		上半期には鉄鋼、非鉄金属などの原料が増加したが、下半期は建築関連中心とする国内需要減退に際し国際市況下落と円高が加わり減少。
05a 鉄鋼		964	+16.0%	655	+26.2%	350	▲21.4%	1,005	+4.2%	↓ 620	▲38.3%		下半期からの需要の急激な鈍化に対し、中国・韓国・台湾の各国ミル材の価格は軒並み足下で大幅に下落。まだ底が見えない。下半期は、国内市況と国際市況のかい離により一時的に輸入量が増加する局面もあるが、国内需要は建設・土木業の不振と製造業の生産調整を受け今後大幅な減少が見込まれ、下半期数量は 340 万 t 程度、価格は国内市況の下落幅よりさらに大きい 15% 安程度。
05b 非鉄金属		2,617	+12.5%	1,459	+7.7%	810	▲35.8%	2,269	▲13.3%	↓ 1,550	▲31.7%		アルミ及び同合金は、上半期まで堅調ながら、下半期以降は需要減・相場下落の影響から、輸入金額は大幅減。白金族の金属も下半期は上半期比で価格半減する影響が大きい。
05c 織物用糸・繊維製品		731	+1.7%	368	▲1.3%	351	▲2.0%	719	▲1.6%	↓ 702	▲2.4%		原材料価格の高騰や中国における人件費上昇などコストアップ要因はあるものの、円高方向に反転した影響で円ベースの輸入価格が低下した効果もあり、輸入数量は比較的堅調に拡大。
05d 非金属鉱物製品		715	▲0.9%	359	▲0.1%	340	▲4.5%	699	▲2.3%	→ 700	+0.2%		ガラス及び同製品は、上半期に一部ガラスメーカーによる緊急措置的な輸入対応で輸入数量が増加したが、8 月ごろから通常ペースに。しかし、世界的な景気減速により近隣諸国（特に中国、韓国）の需給が緩んでいるため、低価格による日本への輸出が増加する可能性も否定できない。
IM 06 一般機械		6,459	+2.7%	3,113	▲3.9%	3,066	▲4.8%	6,179	▲4.3%	↓ 5,982	▲3.2%		電算機類及びその部分品、原動機、半導体等製造装置は下半期も輸入金額減少。
06a 電算機類（含周辺機器）		1,852	▲8.1%	875	▲3.0%	903	▲5.0%	1,777	▲4.0%	↓ 1,727	▲2.8%		いわゆる「5 万円パソコン」と呼ばれる低価格のミニノート PC のヒットなどから数量では底打ち。
IM 07 電気機器		9,303	+5.3%	4,387	▲4.2%	4,440	▲6.0%	8,827	▲5.1%	↓ 8,536	▲3.3%		半導体等電子部品はメモリーを中心に価格下落が続く、輸入金額は減少。映像機器は、北京五輪前からテレビの需要が振るわず、通信機も iPhone 発売前後の 7 月に輸入増加した後は減少基調。
07a 半導体等電子部品		2,814	▲3.0%	1,298	▲8.0%	1,241	▲11.5%	2,539	▲9.8%	↓ 2,412	▲5.0%		IC の輸入数量は、上半期は 07 年度を上回るも、メモリーを中心に価格下落が続く、輸入金額は減少。市況悪化により半導体メーカーは減産の方向へ。トランジスタも、引き合いが強まるものの、最終製品価格の下落圧力により価格低下基調。
IM 08 輸送用機器		2,580	+11.4%	1,228	▲3.8%	1,160	▲11.0%	2,387	▲7.5%	→ 2,405	+0.7%		上半期の燃料高による消費の冷え込みや金融危機による資産目減りから自動車輸入が減少。航空機の引き渡しも遅れており、輸送機輸入全体が減少。
08a 自動車		920	+3.7%	383	▲22.6%	346	▲18.5%	729	▲20.7%	↓ 678	▲7.0%		燃料高による消費者心理冷え込みに加え、金融危機による資産目減りから高額所得者層の購買意欲が減退。
08b 航空機類		698	+9.9%	350	+2.6%	362	+1.3%	712	+1.9%	↑ 844	+18.5%		米国製航空機引き渡しスケジュールの遅延で微増にとどまる。
IM 09 その他		9,853	+0.6%	4,742	▲4.5%	4,693	▲4.0%	9,435	▲4.2%	↓ 9,152	▲3.0%		精密機械類のうち、液晶デバイスは数量・金額で堅調だが、全体として低下基調。その他雑製品では、プラスチック製品、玩具遊戯用具が減少。
09a 衣類・同付属品		2,748	▲0.5%	1,353	▲5.8%	1,246	▲5.0%	2,599	▲5.4%	↓ 2,453	▲5.6%		衣類等の輸入は、国内個人消費の低迷を受け、数量で減少傾向続く。年初来食品やガソリン等の日常生活品の値上がりで消費者心理が冷え込んでいることもあり、特に中級品の婦人服・カジュアル物の販売不振が深刻。原燃料や人件費高騰による（ドルベースでの）コストアップは円高の効果によって相殺され、円建て価格は年初来低下基調に転じている。
製品輸入		41,039	+4.7%	20,430	▲0.7%	18,931	+8.1%	39,361	▲4.1%	↓ 37,165	▲5.6%		製品輸入比率 51.2%（前年度比マイナス 3.6 ポイント）
													製品輸入比率 58.2%（前年度比プラス 7.0 ポイント）

* 金額は億円単位を四捨五入、2008 年度上半期の実績は 9 桁速報ベース

* 「↑」は前年度比増加、「↓」は減少、「→」は横ばい（前年度比±1%未満）を表している

製品輸入比率 51.2%（前年度比マイナス 3.6 ポイント）

製品輸入比率 58.2%（前年度比プラス 7.0 ポイント）